生物化学分析部門

平成 27 年 12 月 17 日

会員各位

一般社団法人 福井県臨床検査技師会 生物化学分析部門 部門長 東 正浩

生物化学分析部門研修会のお知らせ

拝啓

時下、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は技師会活動にご理解なら びにご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。生物化学分析部門では下記のとおり研修会を開催いたします。 ご多忙のことと存じますが、お誘い合わせのうえ多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。

敬具

日 時: 平成28年2月6日(土) 14:00~17:00

会 場 : 福井赤十字病院 栄養管理棟 2階 研修室

テーマ: 「知って得する**血液ガス**の見方!! (初級編)」

① 演 題: 血液ガス概要と症例紹介

講師: 三沢 泰一(ラジオメーター株式会社 営業企画部)

~内 容~

血液ガス測定は、緊急検査項目のひとつであることから、迅速性と正確性が求められる検査になります。緊急検査項目としては、血液ガス以外にも様々な項目がありますが、それぞれに意図・目的があり、血液ガス測定においては、患者様の「酸塩基平衡状態の把握」と「酸素化状態の把握」があります。

一般的な血液ガス測定項目としては、pH、pCO2、pO2 が挙げられますが、上記目的において、これらの項目以外にも様々な測定結果を得ることで、より詳細な患者様の状態を見極めることが可能となります。

今回は、一般的な血液ガスの測定項目である、pH、pCO2、pO2 がどのような指標として捉えることができるのか、また、これら以外の項目の結果を得ることで、どんなことがわかるのかを、生理学的な意味合いを含め、いくつかの症例を用いて、測定結果の解釈のコツ・考え方などをご紹介させて頂きます。また、これらの測定結果については、迅速性の他に正確性が求められますが、どのような測定原理で測定されているか、また、サンプルの取扱注意点の概要なども併せてご紹介させて頂きます。

生物化学分析部門

② 演 題 : 「重炭酸イオン濃度測定の臨床的意義」

~静脈血での重炭酸塩測定法とダイヤカラー・CO2 のご紹介~

講 師 : 曽家 義博(東洋紡株式会社 診断システム事業部)

~内 容~

血液中のpH維持に最も重要な生理学的緩衝作用系は重炭酸(HCO3-)・炭酸(CO32-)

であり、HCO3-の量的変化はpHならびに、アニオンギャップの有意な指標となっています。本邦において重炭酸イオンの測定は、血液ガス測定装置によって実施されていますが、得られる測定値は、pHおよび二酸化炭素分圧から Henderson-Hasselbalch の式によって重炭酸イオンが算出されています。

この度、東洋紡は血清中の重炭酸イオン濃度を直接測定可能な酵素法試薬「ダイヤカラー・CO2」を開発しました。本試薬については、国内で初めて汎用的な自動分析機に適用できる試薬であり、同じ自動分析機を利用して得られるナトリウム、カリウム、クロールの測定値を利用してアニオンギャップ(AG)を求めることが可能なことから今後、酸塩基不均衡の診断に大きく貢献することが期待されています。

日本臨床検査技師会の規定により、①日臨技+福臨技 0円 ②福臨技のみ 500円 ③非会員 1000円 となりました。

【問合せ先】 市立敦賀病院 検査室 東 正浩 TEL 0770-22-3611 (内線 4240)

【生涯教育】 専門-20点

*****お知らせ*****

門

生物化学分析部門(臨床化学検査・免疫血清検査)では会員の皆様から生物化学分析部門へのご意見・ご要望または質問等をいただきたいと思います。下記のアドレスにメールでお知らせください。世話人とともに、できるかぎり対応していきたいと思います。

(研修会のテーマ、拝聴したい講師の紹介、技術的な質問など、何でもかまいませんよ~!!)

E-mail; ts235751@yahoo.co.jp

たくさんのご意見をお待ちしております!! 部門長 東 正浩(市立敦賀病院)